

第6回 稲沢市学校施設整備基本計画策定委員会 議事録

1 日 時 令和6年3月9日（土） 午後1時

2 場 所 勤労福祉会館 第2・3研修室

3 出席委員 12名

栗林 芳彦、富田 健弘、鈴木 賢一、小川 紗希、曾我 菜美子、
甲斐 琴音、内藤 美文、吉川 永浩、風間 哲郎、江寄 浩央、
平野 直海、鈴木 明裕

4 説明のため出席した職員

教育長 広沢 憲治
教育部長 荻須 正偉、
教育部調整監 森 義孝、教育部次長兼庶務課長 大口 伸、
学校教育課長兼指導主事 松村 覚司、
学校教育課統括主幹兼指導主事 伊藤 尚、
庶務課主幹 大崎 敬介、庶務課主幹 鈴木 達哉

5 委員長あいさつ

3月は卒業の季節です。私どもの大学も来週金曜日に卒業式を行うわけですが、私のゼミの学生はほとんど卒業式に出ないというのです。もちろん卒業式は強制ではないので、出たくなければ別に出なくてもいいのですけれど、理由を聞くと友達がいなからと言うんです。今年の場合は、コロナの影響もあって事情が少し特殊かも知れませんが、ただ、毎年卒業生を見ていると友達を一人もつukれないまま卒業していく学生が毎年いて、そういうのを見ると私の心が痛むわけです。どうしたら友達ができるかということですが、今まで学ぶ機会がなかったのか、そもそも友達が欲しいと思っていないのか、その辺はよくわからないのですが、ただ、そういう状態で社会に出て行って、更にまた結婚とかそういうことを考えると、対人関係を一から築いていくというスキルをやはりどこかの時点で身に付けていてほしいなと思いますし、学校というのは一体何を学ぶところなんだろうと、もちろん国語や算数という教科を学ぶところでもあるのですが、それ以外にもいろいろなことを学ぶ必要があって、今インターネットがある時代ですから、学ぼうと思えば別に学校へ行かなくても学べるものがたくさんあるわけですね。ですから、逆に教科ではなくて学校で何を学べるかという事について、もう少し我々考えていかななくてはいけないのかなというようなことを3月になって思いました。

さて、我々の課題であるところの学校再編について、いろいろな観点から議論を尽

くしてきたわけですが、今日がとりあえず最終日という事になりますので、皆様慎重審議賜りますようよろしくお願いいたします。

●司会

これより協議事項に入らせていただきます。学校施設整備基本計画策定委員会設置要綱第7条の規定により、委員長が議長となりますので、以降の進行は委員長にお願いいたします。

6 協議事項

(1) パブリックコメント募集結果について

◎委員長

それでは、規定により議長を務めさせていただきます。

協議事項(1)「パブリックコメント募集結果について」を議題とします。事務局から説明をお願いします。

(事務局から資料1に基づき説明)

◎委員長

ただいま事務局から説明がありました。委員の皆様、ご意見、ご質問はございますか。

○委員

最初に感じたのが、誤った情報が流れてしまっていると。資料1-①でスクールバスが必要なのではないかと、用意しないのかと。ということはスクールバスを準備しないという情報が流れてしまっていて、そういうことは一切しないというような情報が。僕はそういうのをすごく危惧します。正しい情報が伝わるようにしていただきたい。そして、誤ったデマではないですが、僕がこの会に参加させていただいた理由の一つに、いろいろな統廃合している地域を見てきたときに、変なデマが流れるのですね。それが大人ならまだ返しができるのですが、親がそういう考えだと子どもまで影響される。子どもがそちらの学校へ行くといじめられるから、もう行きたくないとか、誤った情報が子どもに影響を与える。そういうことで言うと、後のほうでいろいろ述べていただいています。正しい情報を正しく伝えていただくという努力をぜひしていただきたいということを感じました。また、ここでは述べられませんが、いろいろな新しい知見などもあったので、ぜひ参考にしていただければと思います。ただ、すごく難しい用語などを引用されている方もあって、コールマンレポートだとかダンバー数ですね、私もインターネットで調べてみましたが、それもきちんと検証しないと、その言葉が使われていますが、それも調べてみると僕はこの書かれた人の解釈と少し違うなど、それは私が間違っているかも知れません。そういう言葉に惑わされずにきちんと判断をしていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

◎委員長

そのほか、何かご意見はございますか。

大変たくさんパブリックコメントが寄せられていますので、市民の皆さんの関心の高さが伺えるかと思いますが、何か全体に関してでもいいですし、特定の部分に関してでもいいですので、何かご意見がありましたらお願いします。

○委員

いろいろなところに、市全体として大局的に考えた時に、教育の公平性の観点からもうという言葉が案のところに出てくるわけですが、大局的に考えたというその大局的という言葉や、教育の公平性の観点というのは、どういうところを指しているのか教えていただければと思います。

●事務局

教育の公平性というところにつきましては、稲沢市はパブリックコメントの中にもありましたが、地域によって学校の規模や児童生徒数が大きく異なるところがありますが、教育委員会として考えた時に、うちの地区は児童数が4人、5人になっても小規模の学校がいいですと、もちろんそういうご意見の方もおみえになるとは思いますが、教育委員会としては市全体で見た時に、片方は1学級が30人から35人程度の学級規模で、複数の学級があって、集団での学びを行っている、もう片方は1学年あたりの児童数が4人、5人で複式学級になってしまい、2学年以上の学年で1つの学級を編成する複式学級になった形で学校運営を行っている。そうすると、果たして教育の公平性が保たれているのかという考え方に基づいて書かせていただいています。

○委員

今のことを受けて、学校再編、統合について、課題は子どもの数が減ってくるという事、それと施設の老朽化、そうした課題は現実としてあるわけですので、それを1校ずつ建て替えてすぐに建物が壊れないとかきれいになるという事ができればいいですが、そうなった時にお金が掛かってくるという事があると思います。そういう課題があった時に、建て替えを機会に再編等を考えていくという事は、自分も稲沢市全体をと考えた時に、ここのご意見を見せていただいた時に、本当に再編に賛成から反対まで様々あるということが分かりましたし、地域の学校として残すべき考えという事も、本当に皆さんいろいろ書かれて、そのとおりだなと思います。今の回答を受けて、市としてやっていく事を考えると、そういう避けられない課題があってもうまくやっっていこうとすれば、ある程度再編をしながらそれを解決していく事が大事ではないかなと思います。通学の件で言えば、スクールバスを出すという話もありますが、新しい資料でいただいた豊明市のように、みんなの自宅の近くにスクールバスが行くのではなく、集合場所に集まってから行くとか、通学距離が伸びれば当然、熱中症や交通安全、不審者対応など保護者の方が心配されることがたくさんありますので、そうしたことを当然、どうやって解決していくかという事を今後検討していかなければいけないと思いますし、自分が思うのは80年経って、1校建て替えたなら長いスパンで80年はもたせると考えた時に、その中で子どもがどんどん減って行って、その学校に通う子どもが本当に少なくなった時に、建ててしまってどうするのかなとその時考え

るのでは遅いかなと思うので、現段階で、今の考え方でその大局的ということや公平性という事を考えて、こうした考え方で進めて行けるのがいいのではないかと思います。

◎委員長

ありがとうございます。事務局どうぞ。

●事務局

ありがとうございました。今委員がおっしゃられたとおり、教育委員会の事務局で考えていますのは、来年すぐに建替えをするという話ではなくて、老朽化した学校、学校によって10年先であったり15年先であったりしますが、耐力度の限界を迎える時期がやがて来ます。その時に、どうしても建て替えることにはなりますが、建て替えるにあたって、あえて複式学級になるような規模で学校を建て替えますかと。そういう形ではなく、稲沢市全体として標準規模を保てるような形で建替えを考えていきませんか。そうすることで、将来的な子どもたちにとってのデメリットが少なくなる、財政的な面もそうですし、そういったことをお話させていただいているものです。我々がその辺りの情報発信が弱い部分もあって反省材料なのですが、最初の委員のお話にもありましたように、間違った情報が、この計画が決まったら来年度にすぐに小規模な学校は再編、統合されてしまうというような形で伝わってしまっているところがあります。実際には、来年度すぐということではなく、来年度以降、各地区に入って将来の建替えに向けて、話し合いをしていくものですので、その点を丁寧に説明してまいりたいと考えています。

◎委員長

そのほか、何かございますか。

○委員

この結果をいろいろ読ませていただいて、やはり年代で皆さんそれぞれ考え方が違うし、地区ごとでも違うと思います。この統廃合を前提としている場でこんなことを言うのも何ですが、統廃合を求めている地区で、建替えで平屋だった場合のコストや、バスなども含めた全体のコストはどうかということ、住民に対して個別で今後説明していくにあたって、いろいろなことを提示して話をしないと、今は判断材料が少なく、こういったいろいろな意見になってきていると思うので、それぞれ地区の意見を聞きつつ、統廃合が絶対嫌だという意見もあると思いますが、金額的な部分や将来の人口減などいろいろ考えることが多すぎて難しいのですが、やはり地域の方の意見を聞きつつ進めて行っていただきたいので、まとめるのは非常に難しいと感じたので、あとは地域の方々のほうへ繋いでいただいて、未来に向けて進めて行っていただけたらなと感じました。

○委員長

ありがとうございました。事務局どうぞ。

●事務局

全くそのとおりで、地域に入って意見を聞きながら、地域と一緒に学校をつくって

いくという回答もさせていただいていますので、そんな形で進めたいと思います。ただ、その時に教育委員会としてはこう考えていますというものがないと、なかなか地域の方のご意見を伺うにしても、じゃあ教育委員会はこう考えているんですか、いやまだ決まっていますでは協議になりませんので、そのための方針という事で策定させていただいていますので、よろしくお願いたします。

◎委員長

そのほか、よろしいでしょうか。

○委員

たくさんの方の意見に目を通させていただきました。やはり、賛成の方もあれば反対の方もあって、行政の今後の学校の事、子どもの事、お金の事などを考えた上で、必要であるという事で進んでいると思いますが、この反対の中に今まで住んできてそこで育ってみえた方々の想いとか、そういった言葉がパブリックコメントの中にもあって、それは外から来た者にはわからないものであったり、そういった思いがたくさんあるという事も知りました。ただ、皆さん子どものためにそんなことにお金を使わないでという考え方を持ってみえる方の意見は目にしなかったと思いますが、今後の子どものため、市のためを考えてはみえるけれど、自分たちの防災的などころ、避難所のことだったりとかで不安を抱えてみえるという意見もありましたので、更に多くの方に知っていただく、今後 tetoru を使ったり、ホームページを使ったり、LINE を使ったり、様々な方法でお知らせしていくというコメントも市の言葉としてありましたが、とにかくたくさんの方に知っていただいて、理解していただく工夫をより力を入れてやっていただけるといいのかなと思いました。

◎委員長

ほかにかがででしょうか。

○委員

先ほどの話で、地域に落とし込んで学校について考える事はとても大事だと思いますが、仮称地域協議会の編成や選定は今のところ決まっていますでしょうか。

●事務局

地域協議会につきましては、計画案に例示はありますが、策定委員会のように保護者代表何人とか、学校運営協議会の方から何人とか具体的に決まっているわけではありません。これは私の個人的な考えですが、計画について説明をさせていただいて、ある程度理解をしていただいた地域で、いろいろな課題はありますが、新しい学校の建設に向けて課題を洗い出して検討していきましょうという方向性になった時に、地元の方で、地元の中でこういう人を入れるべきではないかということをお伺いしながら、編成と言いますか、やっていくのかなと、こちらから指名させていただくと、また恣意的ではないかという話になってしまいますので、できれば地元の方でこういう人を入れてやっていった方がこの地域については建設的な議論ができるのではないかと、という方向性の中で、決めていければと考えています。

◎委員長

とりあえず、パブリックコメントに対してどのような回答をしていくかということが主眼の議題になっていますが、それ以外の意見もいろいろありまして良かったかなと思います。この件について、ここで、この後また皆さんにご意見を伺うつもりですが、このパブリックコメントの意見への対応という事で、さらに何かご意見等ありますか。

◎委員長

ないようですので、とりあえず、パブリックコメントの募集結果についてはここまでとさせていただきます。

(2) 計画案の修正について

◎委員長

続いて、協議事項(2)「計画案の修正について」を議題とします。事務局から説明をお願いします。

(事務局から資料2に基づき説明)

◎委員長

ただいま事務局から説明がありました。委員の皆様、ご意見、ご質問はございますか。今回、最後の策定委員会となりますので、文言の修正等に関して、仮に修正が必要となった場合、この場で合意形成をする必要がございますので、今までの説明でここがまずいのではないかとか、ここはこうしたほうがいいのではないかとという点がありましたら、この場でご指摘をお願いします。

○委員

今文言のというお話がありましたので、40 ページの一番下のほうで、児童やとあるのは、生徒は書かなくてもよろしいですか。

●事務局

当面、学校再編、統合は中学校が対象外だったという事もありまして、児童という記載にしておりますが、児童生徒という形で追加させていただきたいと思います。

○委員

この質問の意図は何かと言うと、地域に根差した子どもたちを育てるために、地域を愛する子どもということが今国でも言われているところですので、小学校を卒業した中学生、生徒にも意見を聞く必要があるのではないかなと思ったので、今の質問をさせていただきました。

◎委員長

そのほか、ございますか。

○委員

1点確認ですが、統廃合を大前提とした会議ではないという捉えでよろしかったでしょうか。学校が小規模化していく、それを検討していく中での避けられない課題であるという捉えでの会議でよろしいでしょうか。

●事務局

委員のおっしゃるとおりです。

○委員

先ほど、各委員の意見を聞いている中でそれが大前提というようなことも聞かれたので、質問させていただきました。そういった事を含めて、通学距離や地域コミュニティといった課題が賛成の方からも反対の方からもそういった意見が出されている現状が、今日のパブリックコメントの中でも示されていました。通学距離という事であれば、そもそもゆとり教育からの脱却ということで、国が学習指導要領を改訂したときに、学習内容を大幅に増やしたという現状があって、その段階で教科書が大きくなり、分厚くなったというところが、荷物が重くなった原因だと私は考えています。現在学校では、荷物を学校へ置いていく、いわゆる置き勉強ですね、置き勉強を認めていくということが保護者からも強く要請があり、今それを進めているわけですが、それでもなお荷物はかなりの重量があるということで、中学校で言えば5キロ、10キロあるのではないかなというご意見を保護者から頂戴することもあります。そういったことを考えていくと、本校では学校から自宅まで1.3キロメートル以上あると自転車通学というところですが、数年前までは1.4キロ、さらにその数年前は2キロ近くというところで絞ってきたわけです。それは物理的な原因があって、どうしても自転車置き場が足りないことが一番の原因になっています。今は自転車を詰めて停めることで、1.3キロメートル以上離れた所ということで限定させていただいていますが、生徒数が減っていく事でそれが少しずつ解消されて、1.2、1.1というように通学範囲が狭まっていくのではないかなと予想しているわけですが、まだまだそれには数年かかるかなと思っています。小学生の子が2.5キロを歩いて行くという保護者の不安を考えると、そういった一つひとつの不安を解消した意見が整備計画の中に示されていないと、なかなか合意形成が図れないのかなと思いますので、地域の方や保護者の方、また子どもたちがどんな不安を感じているのかというところの解消案を少しずつ示しながら進めていく必要があるのかなという感想を持ちました。

◎委員長

ありがとうございます。そのほか、何か。

○委員

この計画案の修正については、特にありませんが、認識がわかっていなくて、ひょっとしたら3の今後の日程についてに関わるかも知れませんが、この修正された稲沢市学校施設整備基本計画案がどのように使われていくのか。今地域に配布してパブリックコメントを求めるところまで終わったわけですよ。この後、これがどういう影響があって、どういう形になるのかということをお教えいただけるとありがたいなと思います。

●事務局

この後、報告事項のところの説明する予定でしたが、ご質問いただきましたので、ここで説明させていただきます。最終案としておまとめいただいたものについては、

今月 21 日に開催予定の定例教育委員会で議案として上げさせていただいて、そこで議決を得る予定をしています。議決が得られましたら来年度以降に各地区に入らせていただいて、地区説明会のような形で開催させていただきますが、その時に教育委員会としてはこのように考えていますという基本方針としてお示しする形で使わせていただきます。各地区でいろいろ協議をしていかなければいけませんので、最終的には例えば学校再編、統合の対象になっている地区で話し合いをさせていただくときには、その地区において基本構想のようなものを別途取りまとめる必要があると考えていますので、そういった形で、基本計画があって、その下に各学校の基本構想がぶら下がるような形で進めさせていただく事を考えています。

◎委員長

その他、何かございますか。

○委員

この修正案は、自分はこのように提示していただければいいかなと思います。パブリックコメントの抱えていることを十分に盛り込んでいただけた、例えば 39 ページの学校再編・統合の考え方の記述の中で、付け加えという事で、現状小規模校では小規模校であることを活かした様々な特色ある教育が行われており、それを否定するものではないという事をここで提示していただいた事や、スクールバスの件では最後に 2.5 キロということが書かれてはいますが、但し書きで地域の交通事情や同じ行政区内で不公平感を感じることがないように柔軟に検討するという文言、また 40 ページでいろいろな意見がある中で、地域の理解を得るように努めますの後、その後学校再編・統合の必要性をご理解いただけた地域にという文言を加えていただいたのは、パブリックコメントを十分に反映して付け加えていただいた点で、良いなと思います。

◎委員長

そのほか、何かございますか。

○委員

わからないことが一つあって、複式学級は何人以下になると複式学級になるとかの基準はありますか。

●事務局

愛知県の基準では、1 年生と 2 年生、3 年生と 4 年生、5 年生と 6 年生という 2 学年ずつの組み合わせになりまして、1 年生と 2 年生の場合は 7 人以下、3 年生と 4 年生、あるいは 5 年生と 6 年生の組み合わせの場合は 14 人以下という人数の基準があります。ただ、これはそうなったらすぐという事ではなく、そういう状況がある程度続いた状況になった場合という事ですので、そんなことで基準はあります。

◎委員長

今の人数は、それぞれの学年がという事ですか、それとも合計の人数がということですか。

●事務局

1 年生と 2 年生の場合は合計 7 人、3 年生と 4 年生、5 年生と 6 年生の組み合わせ

では合計で14人以下になった場合となっています。

◎委員長

そのほか、修正案について何かご意見はございますか。

◎委員長

追加のご意見もないようですので、計画案の修正についての質疑はここまでにさせていただきます。この修正案を本策定委員会としての最終案とすることについて確認させていただくわけですが、今回が最後の会という事もありますので、委員の皆様からお一人ずつコメントをいただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。すでに発言されている方で、追加することがないという事であればそれでも構いませんが、追加でこれだけは言っておきたいという事がありましたら、お言葉をいただきたいと思っておりますのでよろしくお願ひいたします。

それでは順番にお願いします。

○委員

私は、この会議でいろいろとお話を伺って、再編、統合はやらなければいけない時代かなという気はしています。先週ですが、実は韓国へ行っていて、ソウルの幼稚園、保育園を見学して、うちの短期大学の学生の保育科が向こうで研修するというのを見てきました。すごく、日本より手厚くやっていました。ご存じのように韓国は出生率が1を下回る少子化が高速に進行していて、私たちが今日こうやって考えているようなことも、当然韓国では重大な問題として取り上げられています。小学校も中学校もそうですが、これからきっとそうやって来るだろうと思っております。そうやって来るというのは、私たち今考えると、アンケートにもありましたが、今のまま本当は変えたくありません。何も変えずに今のままやればやってほしいのです。でも、そうはいかない。この中には、「適正な」という言葉がたくさん出てきます。適正って何だろうと思うのですが、5年前、10年前の適正、10年後の適正では当然人数もそれから規模も設備も、それから施設みたいなものも変わってくると。これは稲沢市で考えなければいけないところで、私たち委員としては、今後どうしていくべきかという方針は検討しますが、計画が決定した後は住民の皆さんにしっかりとお話していただいて、写真もありましたが、この写真のようになるのかと私でも聞きたくなる。私の小学校はどうなるのか、青写真と写真もこうなるというのを見せてほしい。ここはもうスクールバス行くぞとか、ここはもう少し我慢してほしいとかいう具体的なものをできる限り示していただいて、稲沢市の教育委員会から住民の統廃合に関しての説明会がこの愛知県その他の見本になるような丁寧な説明を期待したいと思っております。そのくらい重要な案件ですし、私たちも軽々に答えは出せませんが、ぜひ進めて行く必要があるというのが私の意見です。

○委員

今回、大変たくさんのパブリックコメントをいただいて、稲沢市の皆さんがこのことに非常に興味があるということがよく分かりました。教育委員会としては再編、統合を視野に入れた大きな方針を示されたということで、この段階で、えー、そんなこ

とということで、多くのいろいろなどうなるのだろうという気持ちが今ワーストと出てきている状態かなと思っていて、現実にはこの先の個別のところ、地域協議会をつくられてそこで具体的に話が進んでいく事かなと思っっています。私もいくつかのところ、そういうところに参加させていただいていますが、最初はかなりいろいろな課題がワーストと出てきて、そこで一緒に考えていこうという連携とか協働という関係をうまく地域と市のほうで築いていただいて、こういう課題があるので、解決していこうというふうなバージョンに入った瞬間に、それが再編、統合になるかどうかはともかく、新しい動きにつながっていくのかなというのを何度も見えています。もちろん残念ながら決裂したという例も見ました。それはそれでありだと思いますので、皆さんで十分協議していくしかしょうがないと思っっていますし、先ほど質問もありましたが、そこにどなたが参加するのかとか、どういうプロセスを経て物事を考えて行くかという辺りのデザインを上手にしないと、やはりストレスが溜まってくると思っっていますので、大きな方針がまずここで完成したことは良かったと思っっていますので、あとは地域の皆さんと喧々諤々やるしかないと思っっています。

○委員

PTAの会議などでも各学校の施設の老朽化はすごく深刻で、特にトイレの問題はどここの学校でも出ています。トイレに行けないから我慢するという子も中にはいるそうです。なので、建替えという部分は重要だと思うので、それに伴い統廃合をとというのも分かります。私の子どもが通っている学校は自分の母校でもあって、以前私が通っていた時は2クラス、全学年2クラスだったのですが、今は少なくなって1クラスの学年もあります。そんな中で空き教室がすごく増えてきたところを見るとやはり寂しいなと思っっています。という点では、こちらにある標準規模校という学校のクラス単位のほうが賑わっているのかなとも思っっていますし、パブリックコメントにあった少人数学級というのはまた別の話で、1学級の人数が少ないというのも利点があるのかなとも思っっています。私個人の意見ですが、いろいろこの委員会に1年間参加することによって、考えさせられることもありましたし、主に保護者の立場で見ることが多いのですが、学校という施設において、教育の場だけでなく地域のものであったり、先生方の職場として考えるのであればもっといろいろ考えなければいけないところもあると思っっています。そういったところも今後地域に落とし込んでしっかり協議ができるといいなと思っいました。

○委員

私も参加当初からこの場において、中学校の保護者代表としてここにいていいのかなと思っながら、様々な意見を伺いながら我が子が通うことになったらと場面場面で重ねながら考えながら聞いていました。平和地区で育っている我が子は小規模校で何も問題ないと感じていましたが、この話し合いが小規模校を決して否定しているわけではないというのも分かりましたし、今は良くて数十年後に同じようにこのままでいいと思えるのかな、そうでもないのかも知れないと考えるようにもなりました。きっと子どもはどんな環境になっても適応していく力は持っていると思っっています。大人が変

化を受け入れていくのかどうかというところもあるのかな。教育現場で働く先生方もその場に合った教育に、今ももちろんそうですし、これからも尽力していただけたらと思っています。私にできることは何なのかなと考えた時に、PTAの集まりの際に、長い時間を掛けてこのような話し合いがされていますという事と、保護者アンケートがありますので皆さんの意見をぜひ反映してくださいという事を伝えました。親が子を想う熱い気持ちを適度に受け止めていただけたらなと願っています。

○委員

この会に参加する前は、地元で育ってきているのでこのままの形を崩したくないという気持ちが強かったのですが、この会議に参加していろいろな問題点などがわかったので、以前より真剣に物事の考え方や市の方たちの考え方がより理解できたのかなと思います。パブリックコメントもすごくたくさんご意見をいただいて、読ませていただいて反対の方も賛成の方も将来の子どもたちのことをすごく考えてのコメントだと思うので、目指すゴールはみんな一緒なので、反対の方も賛成の方も仲良くというか、それは難しいかも知れませんが、お互いの意見を尊重して、否定ばかりではなく仲良くやっていけたらなというのがすごく感じたところです。

○委員

うちの子どもが標準規模の小学校に通っているのですが、今までこんなこと考えたこともなかったですし、実際統廃合となったら地域の方々の意見がすごく大切なので、地域の方の意見を大切にしていきたい。違う地域に住んでいる人の意見があまり入ってしまうと、話がぐちゃぐちゃになってしまうと思うので、その地域に住んでいる方としっかり話をさせていただいたほうがいいと思うのと、子どもが通っている小学校は建て替えてもらいました。でも児童数が増えて多目的室をなくして教室になっているので、未来は正直分からなくて建て替えてもらっても教室が足りなくなったり、余ったりとかいろいろ起こると思うので、そういったことにも対応できるようにしていただけたらと、建替えのときはそういう事も考えて建て替えていただけたらなと思います。

○委員

私どもまちづくりは地元の学校をコミュニティの拠点として、活動の場として利用させていただいています。やはり学校というのは児童、生徒が将来の稲沢を背負って立っていただける教育の場として先生方のご指導の下でやっていただいていると思います。私の事を言えば、私は団塊の世代の2歳くらい下ですが、それでも私たち1クラス55人から60人いました。そして今少子化で10何人という、私たちの年代と比べると想像もつかない数字なんですよね。策定委員会に入って今の稲沢市の状況がこのような状況になっているという事で、改めて私ども教育を見直さなければならないのかなと思っています。私ども安心安全に生活するにはまちづくりを拠点にするのでどうしても学校を中心に考えていきますので、このような形で参加させていただいて勉強になりました。ありがとうございました。

○委員

自分は先ほど協議事項(1)のところでも自分の意見を少し入れてしまいましたが、自分は子どもたちの学習する校舎が新しいほうが良いなと思っています。少しでも早くそうした環境ができるといいなと思っています。千代田小学校でも保護者からトイレが暗い、汚い、臭い、これは何年も前から変わりませんねというお話をいただいています。教育委員会にも当然そうしたことがないように少し改善していただけないかということは申しあげているところではありますが、なかなか費用がふんだんにはないということは理解しています。当然一つ一つの学校を建て替えていくということが出来れば、それに越したことはないのですが、そうした事が出来るのであればそれでやっていけばいいと思います。現実的なところを考えると少しでも早くきれいな校舎を、中の環境の充実をと思ったときに、統合して新築する場合は1校建て替えるよりも国や地方から補助が出るということを見ると、財政面ではそちらのほうが早く新しい校舎ができて子どもたちの環境も充実するのではないかなと考えています。ただ、これに伴う通学の問題などについては、先ほど修正案の中にあっただよように地域の声をよく聞いてそれを改善していく検討がされる必要があるかと思っています。

○委員

大変貴重な機会をいただき、勉強にもなりました。私は教員生活が祖父江地区からスタートしていますので、祖父江を想う気持ちは地域の人には負けますが、負けず劣らず祖父江を大事にしていきたいなと思っています。今後も学校施設を新しく整備していく中で、やはり考えていきたいのは子どもたちがどの子どもたちであっても自慢できる学校であってほしいなというのが一番の希望です。また保護者からすると、うちの地区にある学校はこんな施設だという事を全国に広めていただけるような、そんな施設であってほしいし、また地域の人から見ればコミュニティとしてこんないい所があるという自慢になるような施設に変化していくことを切に望んでいます。よろしくお願いたします。

○委員

保育園に送迎に行っていました。車で子どもを送迎していたのですが、小学校に上がった途端、子どもが自分の足で学校に通うようになり、そして行ってらっしゃいと送り出す。保護者の第1歩というか、子どもの自立を目にする機会があるのが小学校かなと思います。それで、近くにあるというか、安全に通える、足で歩いて通える範囲内にあった学校に送り出していたからこそ、行ってらっしゃいと送り出せたのかなと思うと、こういう形になっていく今後の事を考えると少し寂しい気はしています。ただ、ここに参加して、いろいろと教えていただく中で、今後は今の状況に合ったように変えていかないといけないのも現実かなと思います。その中で、やはり地域愛をすごくパブリックコメントの中でも感じましたので、子どもたちにとっても自分の育った地域に愛情を持てるような、また自分が育て、ここで子育てをしたいと思えるような学校施設であったり、地域であってほしいなということを切に考えます。今、核家族の方が増えています。外からみえる方も、この地元には根差した何かがあるわけではないけれど、魅力あるからここで子育てをしたいと思ってもらえるような、ゆ

くゆく人口が少しでも増えていく、子どもを育てる世代の方々が増えていくまちになっていってくれたらと思います。

○委員

今日ここでは、自分が普段考えていることをお伝えしたいと思います。教育についてはベストはないと思います。ベターはあってもベストはない。絶対的に正しいという事はない。いろいろなことで決断しなければいけないから決断している。国の教育施策についても、彼らは失敗とは言わないけれど失敗していることもいっぱいあるし、逆に失敗だと周りから攻められているのに、何年かたってから実はあれはすごく良かったことではないかと思直しが行われたりとか。そういうことは当たり前に行われていることで、教育ではそんなことがいっぱいある。決断される時も、6対4で決断するのはまだいいほうで、4.5と5.5、ぎりぎりのところでどちらかに決めなければいけないから決断する、今後そういう場面がたくさん出てくるだろうと思います。全員が賛成、全員がオーケー、逆にそれは危ないことだと思います。そういう事で言うと、いろいろな立場で教育に関わってきた人間ですので、そういうことでとんでもない発言をする人間もいたほうがいいかなと思、参加させていただきました。もう一つ、とんでもない話だと、そういう教育に関わる人間、今大学に勤めていますが、先の令和の日本型教育の話に関わった人に来ていただいて講演したときに、その人が我々に発問したんですね。何を言われたか。「みんなで集まって学ぶことの意味は何ですか」と。今、コロナを経て家でリモートでも授業を受けられる状態になっている。だけどみんな学校に集まってくる。学校に集まろうと言っている。それはなぜですか。そういうのを今、また問い直していく。それが学校、教育を考える人間のほうでは行われているという事も理解いただけるとありがたい。これも何が正しいかはわかりませんが。勝手なことばかり言ってきましたが、少しでもお役に立てれば幸いです。

◎委員長

最後に、私も一言言わせていただきます。今、既に委員からお話があったとおりで、どんなプランも100パーセント正しいとか、100パーセント有益であるというものは多分ないですよ。ですから、100パーセントではない複数の案から一つを選ばなければならないといったときに、いろいろな視点からみんなで評価をし合って、より良いプランを選んでいくというプロセスが大事なのだらうなと思いますし、あと誤解と言いますか、この案が策定されて、これに従って物事が粛々と進んで行くという話では全然なくて、これはあくまでも教育委員会の一つの方向性として、議論のたたき台として教育委員会としてはこういうふうを考えているということをもまず定めて、それを基に地域で議論していただいて、より良い解決策を導いていくというふうな形で存在しているものだと、私も理解しています。その辺りは誤解がないようにいろいろ広報等をやっただけならばなと思います。ある意味、国の失政、失敗を地域が尻ぬぐいさせられている状況がたくさんあるのですが、この人口問題もそのとおりですよ。人口がこういうふうには急激に減っているということは、ある程度予見できたはずなのに、それに対して何ら対策を取ってこなかったということがあって、それで人口が減

って、いろいろな所でみなさんしんどい思いをするというような状況になっているわけですが、その中でこの小学校の統廃合の話が学校教育という事だけではなく、地域住民の地域愛というものが関わっているから、結構話が難しくなっていることがあると思うのですが、逆にどうやったら、学校と地域愛をうまく切り離して、小学校がどこにあるかということとはとりあえずあえず抜きにして、そうでない形、地域のつながりであったり、地域に対する誇りであったりとかそういったようなものを高めていくような仕組みを考えていくのも一つの方向としてあるのかなと思います。

話が長くなって大変恐縮ですが、私はよくイタリアに行きます。シエナという町があって、年に1回地区対抗の競馬大会があります。裸馬に乗って、町の真ん中にある広場を回る大変有名なもので、開催されると全国に生中継されるものなんです。19の地区からそれぞれ馬が出て、競争して優勝した地区はもう大騒ぎになります。そこの人たちが優勝すると、優勝パレードで町の中をぐるぐる回ることになっているのですが、たまたま去年それに遭遇したわけです。すごく驚いたのが、町の人達がみんなパレードしてくるのですが、最初にパレードの先頭を歩いているのはベビーカーを押しているお母さんたちなんです。生まれた赤ん坊の頃から我々はこの地区の人間だということをおもい洗脳しているんだらうと思うのですが、ベビーカーに乗せた赤ん坊、小学生、中学生、大人という順番で町を練り歩くということをやっているわけです。なるほどな、こういうことによって、地域の結束、それから地域愛というものが育まれているのだな、もちろんそこには競争という仕組みも効果を発揮していると思いますが、そういうものを見るにつけ、こういう努力を重ねているからこそ地元愛というものが形になっているのだなというのを見て、日本のまちづくりもそういうものが上手く取り込めないのかなと思ったりするわけです。ということで、余計な話をしましたけれど、皆さんご意見ありがとうございました。

それでは、ほかに特に何かここで言うておきたいということはありませんか。

◎委員長

なければ、この修正案、一部修正がありました。そこは事務局で対応していただくとして、あとは実際の誤字脱字等はこちらのほうで修正させていただくという事で、修正後の計画を本策定委員会の最終案としてよろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

◎委員長

ありがとうございます。それでは、本計画案を本策定委員会の最終案とさせていただきます。

7 報告事項

(1) 今後の日程について

◎委員長

それでは、議題の3報告事項について、事務局からお願いいたします。

●事務局

3の報告事項、今後の予定について説明させていただきます。先ほど少し議題の中でお話をさせていただきましたが、今回策定委員会としての最終案をおとりまとめいただきましたので、今後の流れといたしまして、3月21日木曜日開催予定の定例教育委員会において最終案を議案として提出させていただく予定です。3月21日に計画案が承認されましたら、計画を市公式ホームページ上で公表するほか、来年度以降に市広報で特集号のような形で計画の内容をお知らせする、またその後に各地区での説明会に繋げていく予定をしています。市公式ホームページで公表する際には、資料編というものを作成しまして、計画やパブリックコメントの結果も併せて公表する予定ですが、今日お配りしました資料で資料編の内容というA4で1枚の資料がありますが、資料編につきましてはお配りした資料編内容に書かれている5つの項目を掲載する予定をしています。策定委員会の設置要綱や委員名簿、6回の会議の開催日や各会の議題、傍聴人数等の掲載を予定しています。また、パブリックコメントの実施結果につきましては、募集期間と提出件数、地区説明会の開催日程、各会場の参加人数を掲載します。また、保護者アンケートの自由記述欄が700件以上ございましたので、こちらはいただいた意見をすべて掲載する予定です。このほか、参考資料として稲沢市の義務教育と学校のあるべき姿も収録する予定をしています。

事務局からは以上です。

◎委員長

ただいま事務局から説明がありました。このことについて何かございますか。

◎委員長

特にないようですので、本日の協議事項はこれまでとさせていただきます。皆様、慎重審議ありがとうございました。

それでは、これで事務局にお返しします。

8 閉会

●司会

今回が最終の策定委員会となりますので、広沢教育長からお礼のごあいさつを申し上げます。

◎教育長

今日のこの会が一応区切りという事で、私からお礼のごあいさつを申し上げます。

委員の皆様におかれましては、本当にこの1年ご多用の中、6回の委員会、また瀬戸市への視察などもありまして、学校施設整備基本計画の策定に本当にご尽力をいただき、深く感謝申し上げます。先ほど、皆さんのコメントを伺っておりましても、皆さん本当に真剣に取り組んでいただいたことが分かり、大変うれしく、また敬意を表するところでございます。これまでの説明の中で、何度も出てきた内容であります、私としても市内の学校の老朽化については大変心配しております。建築されてから50

年、60年を経過している所がかなりあって、もしこのまま放置していった場合、どうなってしまうのかという事をいろいろと心配するわけであります。今の時点では、耐震補強工事も全校完了していますので、一応安心はあるわけですが、しかしさらに時間が経てばその分また老朽化が進んでしまう。そんなこともあるわけであります。とにかく子どもたちが安心して学校の活動、学習に取り組める環境をつくるのが、できるだけ早く実現できればという想いを私も持っています。これは、統合の関係しない学校も同じことでもありますので、そんなつもりでこれからやっていかなければならないという事を、今考えているところであります。本日まで検討していただいたこの案が具体化するまでには、まだまだ長い時間が掛かっていくだろうと思っておりますけれど、これが具体的にになった時には、新しい教育のあり方にも対応したそんな校舎で、子どもたちが伸び伸びと学習活動に取り組んでいる、そんな姿を想像し、ここから先は夢物語になりそうですが、近隣の市町を含めいろいろな所からこういう校舎を見たいと見学に来てもらえるような校舎が出来ればなど、そんなことを今思うわけでございます。私どもといたしましては、これから今日の案をベースとしての検討を更に推し進めて、確実に一步一步、新しい校舎、新しい教育への道を進めていきたいと考えております。これからもいろいろな形でアドバイス、またご意見をいただけたら幸いです。

本当にいろいろとありがとうございました。

●司会

これをもちまして、第6回策定委員会を閉会いたします。

閉 会 【午後2時57分終了】